

気もちがこもったお米

長崎立日見小学校 二年 ひら田 しの

春休みにじいちゃんの家にあそびに行きた  
ときごはんを食べていたら、うぐろがかわいい  
ちやんがかえって来た。ふしぎに思ってたじい  
ちゃんを見たら、足はどろだらけで、顔はあ  
せだくだた。私が、  
「どこに行ってきたの？」  
と聞くと、

「田んぼだよ。」

と教えてくれた。じいちゃんは私たちが食べ  
るお米のために、田んぼのさぎょうをしてく  
れていたのだ。

じいちゃんを手伝いたいと思った私は、田  
んぼの中は、うえめ作ぎょうを手伝った。田んぼの中は、  
どろどろしていて歩きにくかった。こけがない  
ようには足をよこに広げてみないとこしをまげて  
ぶんばった。なれがぬけないように、手のひら  
びにカを入れておくまでうえた。

お米がせい長している間も、じいちゃんは

田んぼのようすを見て、

「まだ青いなあ。」

と言っていた。

夏のしやうがくの作ぎやうでは、自分より  
大きなトラクターをうんてんしているすがた  
を見た。じいちゃんがたいへんな作ぎやうを  
がんばっているりやうは、「家そくみんなに  
おいしいお米を食べてほしいがらうだ。」  
こんなじいちゃんががんばってくれてい  
るのに、「いたたきます」「ごちそうさま。」

を言えていないことに気がついた。これから  
ごはんを食べるときは、「いたたきます」「  
ごちそうさま」をみんなと言って、ごはんを  
食べられることにかんしやをして食べたい。